福岡市埋蔵文化財調査報告書　第1203集

桧原（ひばる）遺跡２

－第６次調査の報告－

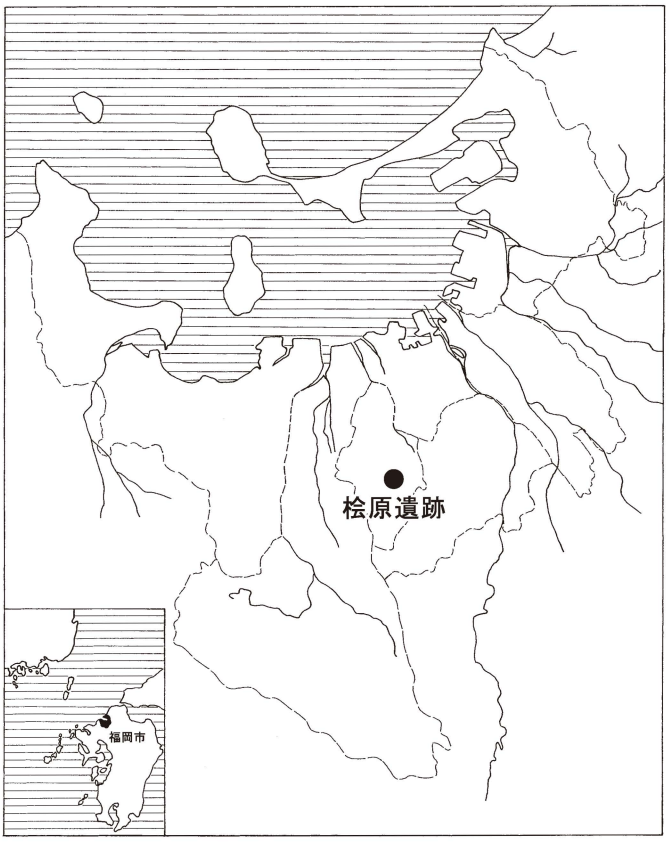
2013

福岡市教育委員会

福岡市埋蔵文化財調査報告書　第1203集

桧原（ひばる）遺跡２

－第６次調査の報告－



遺跡略号　HBR－６
調査番号　1123

2013

福岡市教育委員会

序

古くから大陸文化を受け入れる窓口として栄えた福岡市には数多くの文化財が存在しています。それらは本市のみならず、わが国のかけがえのない財産でありますが、開発によりやむを得ず失われる埋蔵文化財については事前に記録保存調査を行い、後世に伝えるようつとめております。

本書で報告する桧原遺跡は、油山の北麓、樋井川流域に展開する遺跡で、現在の桧原運動公園周辺に位置しております。これまでの発掘調査等で、古墳時代から中世の集落や前方後円墳を含む古墳群などが存在したことが明らかになっており、樋井川流域における重要な遺跡の一つと考えられております。

本書で報告する第 6 次調査地点は遺跡の北端部に位置しますが、古墳時代後期や中世後期の集落関連遺構がみつかり、桧原遺跡の具体的な歴史的変遷を明らかにする資料を得ることができました。

本書が埋蔵文化財保護に対する理解と認識を深める一助となるとともに、学術研究の資料として活用いただけることを心より願っております。

最後になりましたが、発掘調査から報告書作成に至るまでご協力いただいた関係者の方々に厚くお礼申し上げます。

平成 25 年 3 月 22 日

福岡市教育委員会
教育長　酒井　龍彦

例　言

1. 本書は南区桧原7丁目 714－2 敷地内の共同住宅建設工事に先立って福岡市教育委員会が実施した桧原遺跡第 6 次調査の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査と整理報告は森本幹彦が担当した。遺構・遺物の実測と製図は担当者が行った。金属遺物の処理と分析は上角智希（福岡市埋蔵文化財センター）が行った。
3. 調査の基準座標は調査区の形態に合わせた任意のものである。本書で用いている方位記号は全て磁北で、真北より6° 20′ 西偏している。
4. 遺構の略号は、土坑を SK、井戸（水溜遺構）をSE、柱穴を SP としている。
5. 各調査の出土遺物や実測図、写真などの記録類は平成 25 年度に福岡市埋蔵文化財センターに収蔵、保管する予定であるので、広く活用されたい。

桧原遺跡　第 6 次調査		遺跡調査番号	1123
地　　番	福岡市南区桧原7丁目 714－2	遺跡略号	HBR－6
分布地図番号	64　東油山	調査面積	83 ㎡
調査期間	2011（平成 23）年 8 月 24 日～ 9 月 5 日		

本 文 目 次

Ⅰ．はじめに
１．調査に至る経緯…… 1
２．調査の組織…… 1

Ⅱ．位置と環境…… 2

Ⅲ．第６次調査の報告…… 4
１．調査の概要…… 4
２．調査の記録…… 4
１）遺構…… 4
２）出土遺物…… 8
３．まとめ…… 8

挿図・写真目次

Fig.1　調査地点と周辺（1/1000、1/300）…… 2
Fig.2　桧原遺跡と周辺（1/50000、1/10000）…… 3
Fig.3　第６次調査区全体図（1/80）…… 5
Fig.4　SK001、柱穴列実測図（1/40）…… 6
Fig.5　SK004、SE009 実測図（1/40）…… 7
Fig.6　出土土器・陶磁器実測図（1/3）…… 7

PL.1　1. 調査区北部（南から）…… 9
2. 調査区北部（東から）…… 9
PL.2　1. 調査区南部（東から）……10
2. SK001（北から）……10
PL.3　1. SK004（北から）……11
2. SK004 土層断面（西から）……11
3. 柱穴列（西から）……11
4. SK009（南から）……11

Ⅰ.はじめに

1.調査に至る経緯

2011（平成 23）年 6 月 17 日付けで個人事業者より福岡市教育委員会宛に、南区桧原7丁目714-2（敷地面積 291.38 ㎡）における共同住宅建設に伴う埋蔵文化財の有無についての照会がなされた（事前審査番号 23-2-221）。申請地は周知の埋蔵文化財包蔵地である桧原遺跡内であり、2011 年 7 月 5 日・11 日に埋蔵文化財第 1 課事前審査係で試掘調査したところ敷地の北部と東部の表土直下で遺構・遺物の存在が確認された。この成果をもとに協議を進めたが、建設工事にあたっては敷地北部の切り下げと遺構面より深い基礎工事の必要があり、遺構の破壊を回避できないことから、記録保存のための発掘調査を実施することになった。ただし試掘調査の成果から、建設工事により埋蔵文化財が影響を受けると判断される、申請地北部と東部の 83 ㎡を調査対象とした。調査・整理費用には国庫補助が適用された。2011 年の 8 月 24 日から 9 月 5 日まで発掘調査を実施した。整理作業は平成 24 年度に行った。

2.調査の組織

調査委託　個人事業者
調査主体　福岡市教育委員会
　教育長　酒井龍彦
　文化財部長　藤尾浩
調査総括　文化財部埋蔵文化財第 2 課課長　田中壽夫
　埋蔵文化財第 2 課調査第 2 係長　菅波正人
庶務担当　埋蔵文化財第 1 課　管理係　井上幸江
事前協議　埋蔵文化財第 1 課事前審査係長　宮井善朗
　事前審査係　木下博文
調査担当　埋蔵文化財第 2 課調査第 2 係　森本幹彦

整理・報告年度の平成 24 年度からは文化財部の異動等に伴い調査の組織は以下の通りとなっている。

調査主体　福岡市経済観光文化局文化財部
　部長　藤尾浩
調査総括　埋蔵文化財調査課長　宮井善朗
　埋蔵文化財調査課調査第 2 係長　菅波正人
庶務担当　埋蔵文化財審査課　管理係　古賀とも子
報告担当　埋蔵文化財審査課　事前審査係　森本幹彦

Ⅱ.位置と環境

桧原遺跡は油山の北麓、桧原川東岸の高位段丘上に立地している。樋井川上流域の遺跡の一つで、近くには大平寺遺跡(古墳群)や柏原遺跡群などがある(Fig. 2)。市制以前は早良郡樋井川村であり、律令期は早良郡畝伊郷であったとみられる。

樋井川上流域では柏原遺跡群等で旧石器や、縄文時代草創期～早期の集落がみつかっており、市内の中でも遺跡形成が、早い地域である。しかし、弥生時代から古墳時代中期には大きな集落が形成されておらず、古墳時代後期になってから、上流域での水田開発や群集墳の増加等と連動するように、本格的な集落が営まれるようになる。

第6次調査地点は桧原遺跡の北端部に位置しており、丘陵北端をなす落ちも検出している(Fig. 1)。後述のように古墳時代後期、飛鳥時代、中世後期の遺構を検出した。近接する第5次調査地点では古墳時代後期の掘立柱建物群や柵のほか旧石器も出土している。

古墳時代後期の集落関連遺構は他にも、第1・2次調査地点や3次調査地点でもみつかっており、遺跡全体に分布するものとみられる。未報告であるが、第1・2次調査地点は遺跡北東部の谷頭であり、当該期の木製品や祭祀関連遺物などが多量に出土している。同時期の竪穴建物や掘立柱建物の他、奈良時代の製鉄遺構もみつかっているようである。

遺跡中央部の丘陵上には桧原古墳群が分布しており、2号墳は後期中葉の前方後円墳であり、当該期における樋井川流域の首長墳とみられる。遺跡東部の丘陵上には現況で古墳の分布が確認できないが、7世紀後半から8世紀を主体とする土器群が出土する地点がある(A地点)。樋井川流域の平野を一望できる地点であり、遺構は不明であるが、当該期の見張所的な小規模施設が存在した可能性がある。

Fig.1　調査地点と周辺(1/1000、1/300)

1．桧原遺跡
2．大平寺遺跡
3．柏原遺跡群
4．樋井川B遺跡
5．樋井川A遺跡
6．宝台遺跡
7．長尾遺跡

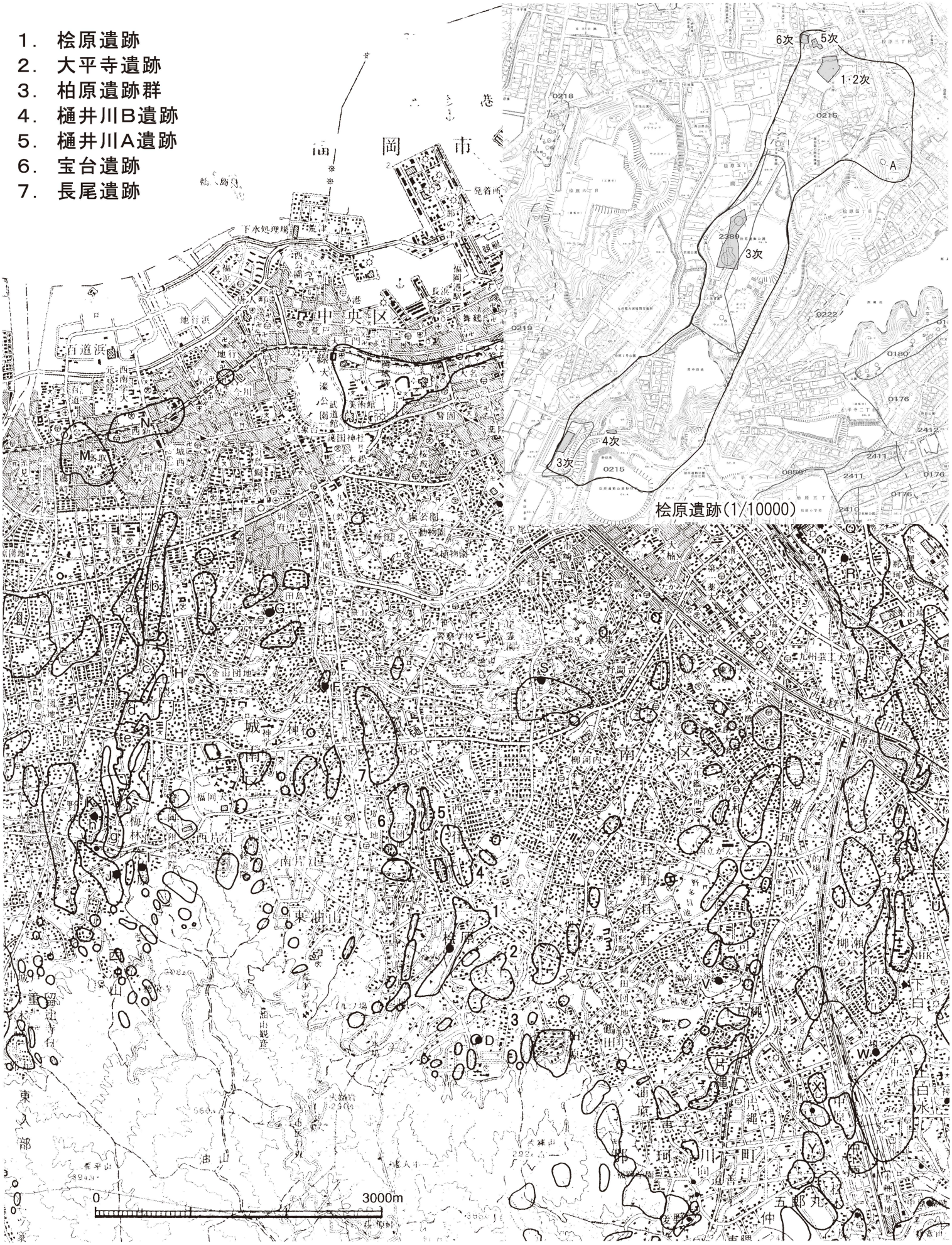


Fig. 2　桧原遺跡と周辺(1/50000)

Ⅲ. 第６次調査の報告

１. 調査の概要

本調査区は桧原遺跡の北に位置しており、丘陵北端部に立地している。

検出した遺構は古墳時代後期の土坑、飛鳥時代の柱穴列（建物か柵かは不明）、中世後期の地下式坑や水溜状遺構の各1基と柱穴少数である。表土下 10 ㎝から 50 ㎝前後の深さで地山の暗橙色～黄褐色粘質土となり、遺構を検出することができるが、敷地の中央部付近には遺構が分布していない。近現代の宅地化に際しての削平が著しく、丘陵縁辺の比較的深い遺構のみが遺存したものとみられる。

出土遺物はコンテナケース 1 箱分である。古墳時代後期後半の土坑から出土した須恵器・土師器を主体とする。その他の遺物には飛鳥時代の須恵器、中世後期（16 世紀前後）の陶磁器・土師皿、縄文時代の黒曜石剥片石器、古墳時代後期の鉄滓などがある。

２. 調査の記録

１）遺構

①ＳＫ001（Fig.4 上）

調査区北部で検出した南北4m以上、東西 3.1mの不整形土坑である。上面が削平されているため、正確なプランは不明であるが、西辺と東辺は直線的で、南辺は弧をなす。覆土は暗褐色土を主体とするもので、炭化物が混じる。深さは 60 ㎝以上である。出土遺物はTK10～TK43 併行期の須恵器と土師器で、遺構の時期は古墳時代後期中葉～後葉と考えられる。土器のほか鍛冶滓が少量出土している。丘陵の北縁に立地しているので、遺構の性格は集落縁辺に配置されたゴミ穴とみられるが、近辺には鍛冶場が存在した可能性も考えられる。

②柱穴列（Fig.4 下）

調査区北東部で検出した直径 40 ㎝前後の柱穴SP003、005、006 は掘立柱建物または柵を構成する柱穴列とみられる。柱穴間の距離は芯々で 1.1 ～ 1.2m、柱は直径 15 ㎝程度とみられる。軸は磁北より西に 23.2° である。丘陵の北東縁に立地し、柱穴間の距離が短い点などから、柵列の可能性が高いと考える。柱穴からの出土遺物は少量であるが、SP006 から 7 世紀前半の須恵器蓋が出土しており、当該期の遺構と考えられる。

③ＳＫ004（Fig.5 左）

調査区南部で検出した長軸長 3.24m、短軸長 1.1mの土坑状の遺構である。4 層は地山に類似する堆積土であり、下部に少し灰色土が混じる。この遺構は地下式坑であり、4 層は通路部分の地山天井が崩落したものであろう。1 層の暗灰褐色砂質土は遺構上半部が削平されてから堆積したも

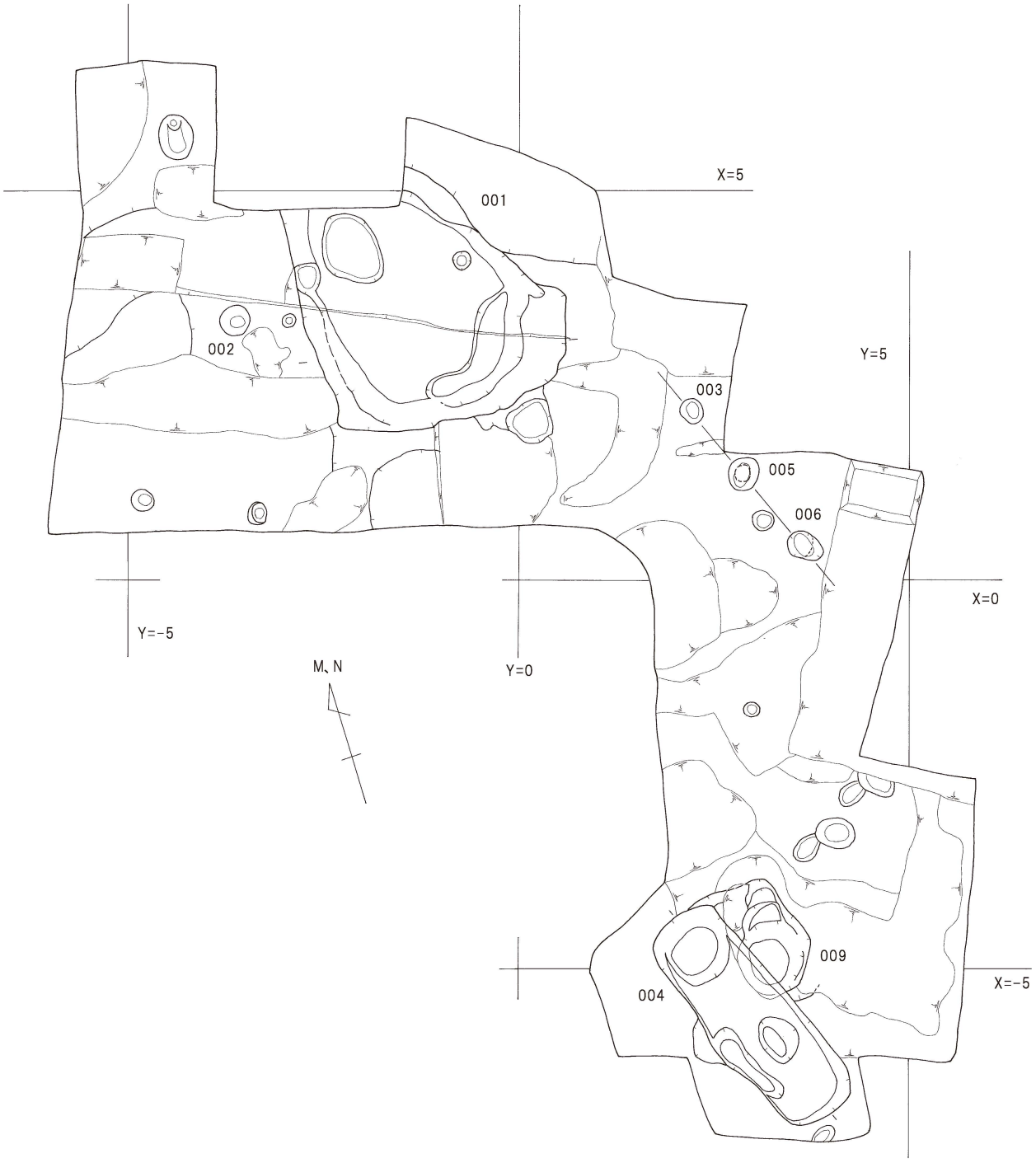
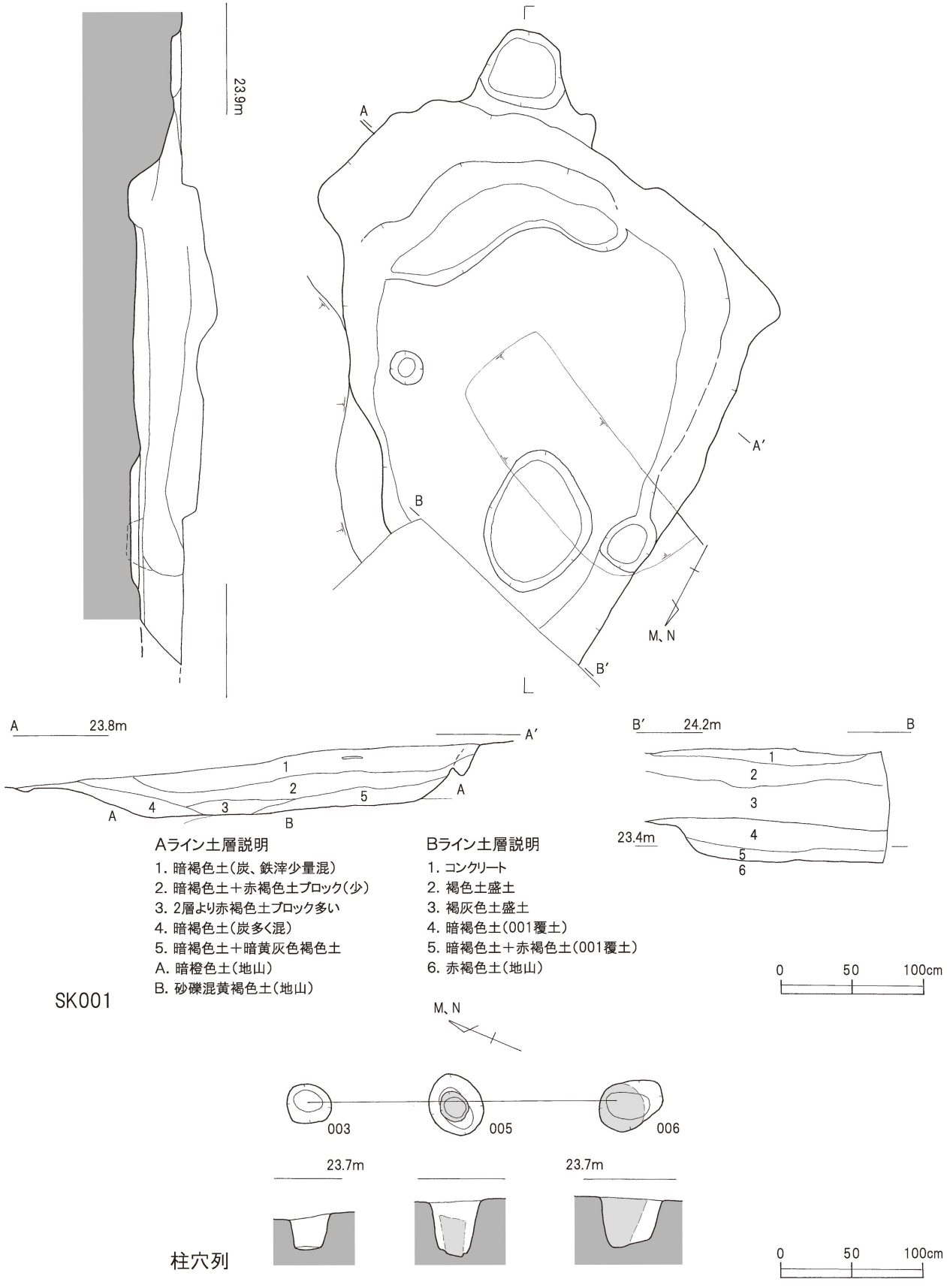


Fig. 3　第６次調査区全体図(1/80)

のとみられる（4 層はその削平の際に崩落したものであろう)。北側が竪抗部で、 平面は直径 1m前後の円形である。南側が横穴の地下室で、通路長 0.5m前後、室長 1.7m前後となろう。出土遺物は少量であるが、1 層から 16 世紀頃の白磁が出土しており、遺構の下限時期と考える。

④ＳＥ009(Fig.5 右）

攪乱やSK004 に切られるため、 上面プランが定かではないが、 検出面で一辺 1.6m以上を測り、下部で直径 0.8m前後の円形プランとなる。深さは 1.1m以上を測り、 今回検出した遺構の中では最も深い。井戸状であるが、 湧水点には達しておらず、 天水等を集める貯水施設の水溜状遺構とみら



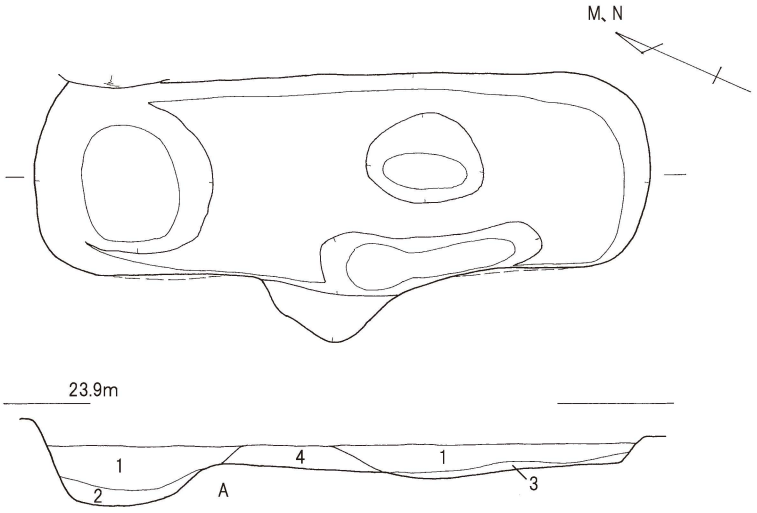
Aライン土層説明

1. 暗褐色土(炭、鉄滓少量混)
2. 暗褐色土＋赤褐色土ブロック(少)
3. 2層より赤褐色土ブロック多い
4. 暗褐色土(炭多く混)
5. 暗褐色土＋暗黄灰色褐色土
A. 暗橙色土(地山)
B. 砂礫混黄褐色土(地山)

Bライン土層説明

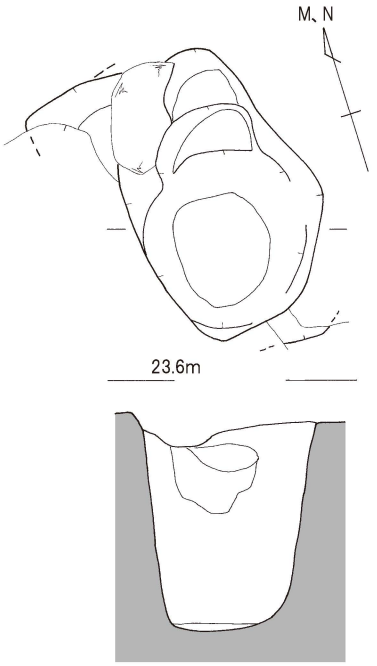
1. コンクリート
2. 褐色土盛土
3. 褐灰色土盛土
4. 暗褐色土(001覆土)
5. 暗褐色土＋赤褐色土(001覆土)
6. 赤褐色土(地山)

Fig. 4　SK001、柱穴列実測図(1/40)



土層説明
1. 暗灰褐色砂質土　2. 灰褐色砂質土＋黄褐色土
3. 暗黄褐色土　4. 黄褐色土(地山崩落土)＋暗茶褐色土　A. 砂礫混黄褐色土(地山)

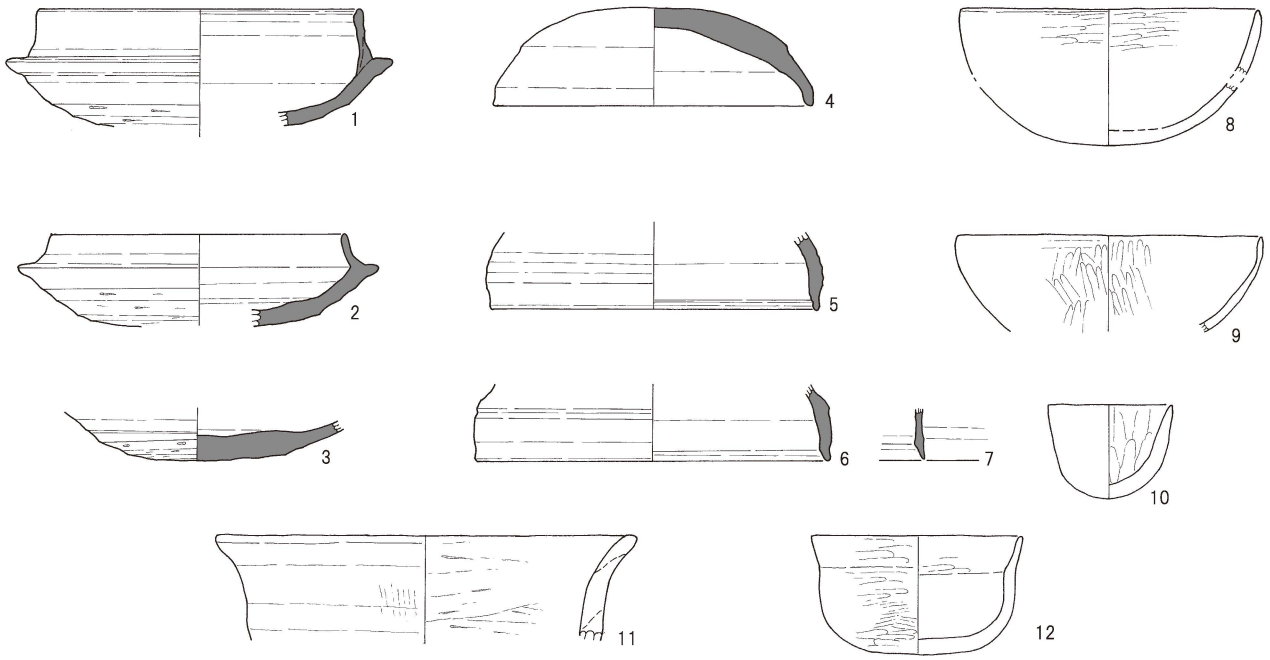
SK004



SE009

0　50　100cm

Fig. 5　SK004、SE009 実測図(1/40)



SK001出土土器

0　10cm

Fig. 6　出土土器・陶磁器実測図(1/3)

れる。堆積土は赤褐色シルト主体で、下層には灰色土や黄褐色土が混じる。人為的な埋土であろう。無遺物である。

2）出土遺物（Fig.6）

1 ～ 12 はSK001 出土土器である。1 ～ 3 は須恵器杯身、4 ～ 7 は須恵器杯蓋、8・9 は土師器鉢、10 は土師器ミニチュア鉢、11 は土師器直口壺、12 は土師器丸底鉢（壺）である。甕や甑といった煮沸用土器片の出土が少ないので、器種組成には偏りがあるといえる。須恵器はTK10 型式期からTK43 型式期にかけてのもので、（1・6・7 が前者）下層からも後者の型式が出土することから、機能時期の時間幅を示すものと考えられる。また、SK004 混入品であるが、 14 の須恵器高坏脚部片も同時期のものであろう。

13 はSP006（柱穴列）出土の須恵器蓋のつまみで、7 世紀前半のものである。

15 はSK004 出土の白磁である。端折れ口縁の皿で景徳鎮窯産であろう。 16 世紀前後のものとみられる。16 は攪乱出土の龍泉窯系青磁Ⅴ類碗の高台部である。17 は調査区北斜面堆積の褐灰色土から出土した土師皿で、 中世末～近世のものとみられる。土器以外の遺物は極少量である。縄文時代の黒曜石剥片石器 2 点 1.48gやSK001 から小鉄滓（鍛冶滓）3 点が出土している。

3．まとめ

桧原遺跡は樋井川上流域の丘陵上に展開する遺跡で、第 6 次調査区はその北限に位置する。

遺跡の盛期は古墳時代後期の集落と古墳であるが、本調査地点でも当該期の集落縁辺にあったとみられる廃棄土坑を検出した。少量ながら鍛冶滓も出土しており、付近に古墳時代後期の鍛冶場が存在した可能性が高い。また、7 世紀前半の柱穴列（柵？）があり、5 次調査でみつかっている建物の一部にもこの段階のものが含まれるとみられる。

桧原遺跡の古墳時代集落は 6 世紀中葉から後葉をピークに、7 世紀前半までは連続すると考えられる。7 世紀後半から 8 世紀の遺物や遺構がみつかっている地点もあるが、今のところ手がかりは少なく、その連続性については不明確ながらも、7 世紀前半までとは断絶があるように感じられる。

第 6 次調査地点では地下式坑や水溜状遺構といった中世後期とみられる遺構も検出した。遺跡内のこれまでの調査では、中世の遺構・遺物がほとんどみつかっていないので、貴重な成果といえる。付近では柏原K遺跡において 13 世紀後半～ 14 世紀前半の居館や水田跡がみつかっているが、今回みつかった中世の遺構はこれに後出する時期のものであろう。福岡市内では、同じ流域の樋井川A遺跡など、地下式坑が中世の居館遺跡からみつかっている事例が少なくない。本例からも、周辺が中世後期の居館である可能性が考えられるので、今後の調査に期待したい。

1．調査区北部（南から）

2．調査区北部（東から）

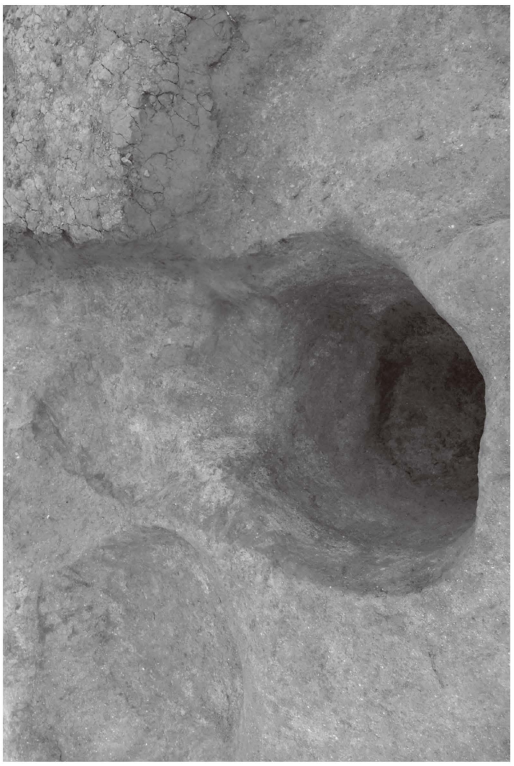
PL. 2

1. 調査区南部（東から）

2. SK001（北から）

PL. 3

3. 柱穴列（西から）



4. SK009（南から）

1. SK004（北から）

2. SK004土層断面（西から）

報　告　書　抄　録

ふりがな	ひばるいせき2
書　　名	桧原遺跡2
副 書 名	第6次調査の報告
シリーズ名	福岡市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第1203集
編著者名	森本幹彦
発　　行	福岡市教育委員会
所 在 地	〒810-8620　福岡市中央区天神1-8-1
発行年月日	2013年3月22日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北　緯	東　経	発掘期間	発掘面積 ㎡	発掘原因
ひばるいせき 桧原遺跡	ふくおかけんふくおかし 福岡県福岡市 みなみくひばる7ちょうめ 南区桧原7丁目	40130	0215	33° 32′ 144″	130° 19′ 31″	20110824 ～ 20110905	83	記録保存調査

所収遺跡名	種 別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
桧原遺跡	集 落	古墳時代・中世	土坑・柱穴列・地下式坑・水溜状遺構	土師器・須恵器・陶磁器・石器・鉄滓	

要　約

桧原遺跡は樋井川上流域の丘陵上に展開する遺跡で、古墳時代後期の集落と古墳を盛期とする。

第6次調査区はその北限に位置し、当該期の集落縁辺にあったとみられる廃棄土坑を検出した。少量ながら鍛冶滓も出土しており、付近に古墳時代後期の鍛冶場が存在した可能性が高い。7世紀前半の柱穴列（柵？）もあり、古墳時代集落は6世紀中葉から後葉をピークに、7世紀前半までは連続すると考えられる。

また、地下式坑や水溜状遺構といった中世後期とみられる遺構も検出した。遺跡内のこれまでの調査では、中世の遺構・遺物がほとんどみつかっていないので、貴重な成果といえる。

福岡市埋蔵文化財調査報告書　第1203集

桧 原 遺 跡 2

―第6次調査の報告―

2013年(平成25年)3月22日

発　行　福岡市教育委員会
　　福岡市中央区天神1-8-1
印　刷　㈲アートプロセス